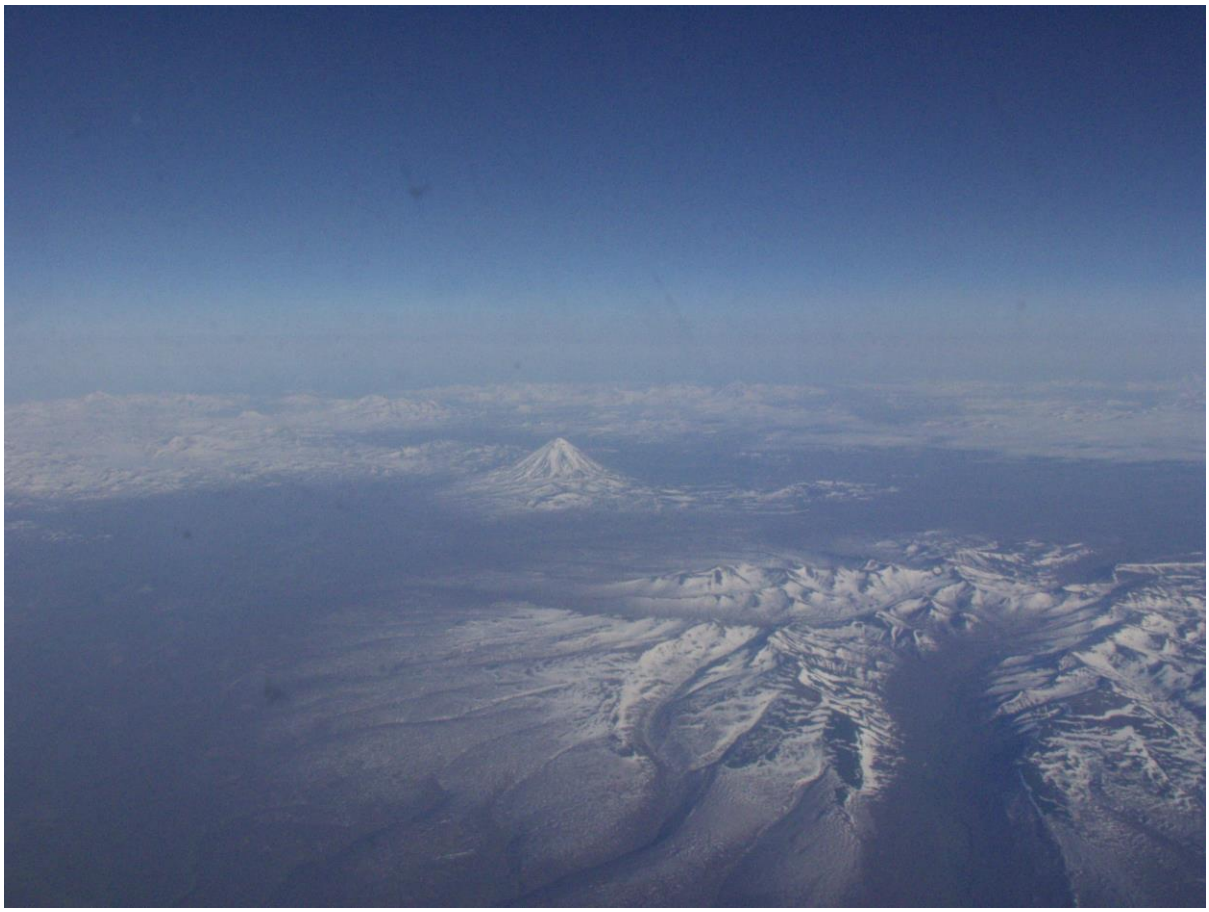
カムチャツカ地方概要



カムチャツカ火山群

２０１９年８月

在ウラジオストク日本国総領事館

目次

１　地理 2
２　気候 2
３　沿革 2
４　人口・住民 3
５　政治 3
６　経済・産業 4
７　軍事 4
８　治安 5
９　日本との関係 5

カムチャツカ地方概観

１　地理

（１）カムチャツカ地方は，ロシア極東地域の最東部(モスクワから 6,773km)，千島列島とチュコト自治管区の間に位置し，カムチャツカ半島およびそれに続く大陸部，コマンドル諸島，カラギンスキー島で構成される。総面積は 46 万 4,300 平方 km(日本の約 1.3 倍)。

（２）同地方の大部分を占めるカムチャツカ半島は，長さ約 1,200 km，最大幅約 450 km，面積約 37 万平方kmに及ぶ広大な地域であり，未開発の自然が広がっている。半島北部は永久凍土に覆われている。半島は環太平洋火山帯に属し，最高峰クリュチェフスキー火山(標高 4,750m)を始め火山(約 300 座，うち約 30 座が活火山)や温泉が多い。また，全長 700 km以上に及ぶカムチャツカ川など，多くの河川や湖沼が存在する。オホーツク海，ベーリング海及び太平洋に囲まれ，水産資源も豊富である。

（３）主な市町：ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市(地方行政府所在地。地方の政治・経済・文化の中心)，エリゾヴォ市(地方第 2 の都市。ペトロパヴロフスク・カムチャツキー空港が所在)，ヴィリュチンスク市(太平洋艦隊原潜基地が所在。閉鎖行政区域)，ウスチ・カムチャツク町，パラナ町(旧コリャーク自治管区行政府所在地)。

（４）カムチャツカ地方は豊富な水産資源を背景に漁業を主要産業として発展し，また，第二次世界大戦後はソ連太平洋艦隊の原潜基地が置かれるなど軍事的拠点として整備された。ソ連時代は閉鎖区域であったが，1990 年代に入り外国人旅行者に開放され，近年では豊かな自然を楽しめる観光地としても注目されている。

（５）日本との時差は，ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市が 3 時間進んでいる。モスクワとの時差は，ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市が 9 時間(通年)進んでいる。

２　気候

（１）カムチャツカ半島には，山脈や火山，地熱などの影響により 20 の気候区分が混在している。年間降水量は東部では 1,300 ㎜，北西部沿岸では年間 500 ㎜である。

（２）カムチャツカ半島の冬は長く，曇りがちで霧に覆われ，積雪量は北部や南部では 0.4～0.9m程度だが，南東部では 1.3mに，沿岸部では 1.8～2.25mに達する。1 月（2019 年）の平均気温は－7.1℃，8 月（2018 年）の平均気温は 14.7℃だが，沿岸部，大陸部，カムチャツカ川沿岸で気温は大きく異なる。

３　沿革

（１）ロシア人によるカムチャツカ探検は 17 世紀に始まった。18 世紀に入ると，ピョートル大帝の命により 3 次にわたるカムチャツカ探検隊が組織されるなど探検・調査が活発化した。この時期には，ベーリング，クラシェニンニコフ，シパンベルグ等多くの探検家がカムチャツカを訪れ，ロシア極東地域のみならず，アジア，アメリカ，日本方面の調査を行った。1779 年には英国探検隊(「Discovery」号と「Resolution」号)がカム

チャツカを訪れ，同隊長チャールズ・クラーク(ジェームス・クックの後継者)はこの地で没している。
(２)1849 年，カムチャツカ州が設置され，その後一時沿海州の一部となったが，1909 年，ペトロパヴロフスク郡など 5 つの郡からなるカムチャツカ州として別個の行政単位となった。
（３）1930 年 12 月，カムチャツカ州内北部にコリャーク自治管区が設置された。1993 年のロシア連邦新憲法施行により別個の連邦構成主体となった。
（４）2007 年 7 月 1 日，カムチャツカ州とコリャーク自治管区が合併し，カムチャツカ地方が成立した。

４　人口・住民

(１)ソ連解体直前の 1991 年のカムチャツカ州の人口は 47 万 2,000 人であった。しかし，その後の市場経済への移行に伴う経済混乱や著しい生産の低下により，他の地域への移転による人口の減少が進み，人口の自然減少も加わった結果，1991 年から 1996 年にかけては毎年平均 1 万 2,400 人のペースで減少した。1996 年以降は減少率が鈍化している(2018 年は 800 人減少)。
(２)2019 年初頭時点のカムチャツカ地方の人口は約 31 万 4,700 人(ロシア連邦人口全体の約 0.2%)で，その約 8 割が中心都市ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市及び第 2 の都市エリゾヴォ市等の都市部に集中している。カムチャツカ地方内にはロシア人を中心に，100 を越える北方少数民族(カムチャダール，イテリメン，エヴェン，コリャークなど)が居住している。

５　政治

(１)2005 年以降，カムチャツカ州とコリャーク自治管区の統合への動きが具体化し，同年 10 月 23 日の住民投票で統合が多数派を占めた。
(２)ロシア憲法改正の後，2007 年 7 月 1 日，カムチャツカ州とコリャーク自治管区が合併し「カムチャツカ地方」が設置され，クジミツキー前カムチャツカ州副知事・自治問題局長が同地方知事に就任した。
(３)2011 年 2 月，それまでカムチャツカ地方主任連邦監督官を務めていたイリューヒン氏が同地方知事代行に任命され，同 3 月に知事に任命された。
(４)2011 年 12 月，カムチャツカ地方議会選挙(定数 28，比例選出 14，選挙区選出 14)が行われた。選挙区制度では 14 か所の選挙区全てにおいて統一ロシア所属の候補者が当選し，比例制度での政党の獲得議席数及び得票率は統一ロシア 8(44.83%)，自由民主党 3(19.77%)，共産党 2(17.67%)，公正ロシア 1(10.77%)であった。
(５)2015 年 5 月，イリューヒン知事は任期終了前に辞任し，2015 年 9 月の知事選挙実施まで知事代行に任命された。同年 9 月の知事選挙でイリューヒン知事代行は当選し，知事に再任した。
（６）2016 年 9 月のカムチャツカ地方議会選挙では，比例代表区の議席割当て及び小選

挙区の投票結果として，統一ロシアが 28 議席の内，21 議席を獲得した。
（７）2017 年 2 月，露極東発展省（現・極東・北極圏発展省）カムチャツカ支部が開設された（同省は他にロシア国内にモスクワ，ハバロフスク，ウラジオストクに事務所を有する）。

６　経済・産業（経済指標の出典：連邦統計局カムチャツカ地方支部資料）

（１）カムチャツカ地方では近年高い経済成長率が続いており，2017 年域内総生産は 2,016 億ルーブルで，2016 年に比べて 1.3%のプラス。
＜カムチャツカ地方の域内総生産＞（括弧内は対前年比）

2013	2014	2015	2016	2017
1,334 億ﾙｰﾌﾞﾙ（+4.7%）	1,458 億ﾙｰﾌﾞﾙ（+9.3%）	1,754 億ﾙｰﾌﾞﾙ（+20.3%）	1,921 億ﾙｰﾌﾞﾙ（+13.0%）	2,016 億ﾙｰﾌﾞﾙ（+1.3%）

（２）主要産業は漁業・水産加工業。水揚げされた魚の大半は輸出に向けられており，2018 年の魚介類の輸出額は 7 億 8,505 万ドルで，前年比で 21.3%増加した。主な輸出先は中国，韓国，日本。
（３）2018 年のカムチャツカ地方の貿易取引額（往復）は 9 億 1,700 万ドルとなり，前年比で 9.7%増加した。輸出は 8 億 430 万ドル，輸入は 7,400 万ドルと大幅な貿易黒字を記録している。2018 年の主な貿易相手国は，①中国：取引額 3 億 8,591 万ドル（輸出：3 億 7,353 万ドル，輸入：1,238 万ドル），② 韓国：取引額 3 億 1,425 万ドル（輸出：2 億 6,635 万ドル，輸入：4,790 万ドル），③日本：取引額 1 億 7,895 万ドル（輸出：1 億 7,374 万ドル，輸入：521 万ドル），④米国：取引額 2,002 万ドル（輸出：1,375 万ドル，輸入：627 万ドル），⑤デンマーク：取引額 1,482 万ドル（輸出：1,365 万ドル，輸入：117 万ドル）。
（４）課題は水産業以外の産業振興であり，今後発展が期待される分野としては観光業がある。特に，ロシア政府により承認された先行発展領域（TOR）「カムチャツカ」の枠組みで，エリゾヴォ空港及びペトロパヴロフスク・カムチャツキー海洋商業港の近代化の他，観光・レクリエーションクラスター「パラトゥンカ」創設等が計画されている。
　2018 年における観光客数は 21.5 万人を超え，近年増加傾向にある（※観光客数はカムチャツカ地方行政府プレスリリース公表値）。
（５）2016 年 7 月 4 日付け「ウラジオストク自由港改正法」により，ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市に自由港制度が創設された。同自由港の居住企業により，ホテルや海洋ロジスティックセンターの建設等が計画されている。また，同制度の枠組内で，2018 年 8 月よりエリゾヴォ空港において電子査証システムの運用が開始された。

７　軍事

（１）カムチャツカ半島はソ連・ロシアの国防上の重要地域であり，特に，アヴァチャ湾南岸のヴィリュチンスク市はロシア海軍（太平洋艦隊）の主要な原潜基地の一つである。
（２）連邦政府は 2020 年までの軍備プログラムの中で海軍装備の充実を進め，2013 年に

はボレイ級戦略型原子力潜水艦「アレクサンドル・ネフスキー」，2016 年には「ウラジーミル・モノマフ」の太平洋艦隊への配備が行われた。また，2017 年には原子力潜水巡洋艦「リャザン」が修理と近代化を終え，2019 年 6 月には原子力潜水艦「オムスク」も修理と近代化を終えた。

８　治安

（１）第１の都市ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市は周辺を海と山に囲まれた半島内に位置し，人の出入りが航空機及び船舶に限定されることから，治安機関は同地方への上陸時における身分確認を厳格化して，外部からの犯罪要因が流入しないよう努めていたが，近年，観光客増加，経済・産業の発達に伴い，人・物の流れが増加し，治安状況もその影響を受けている。

（２）2018 年の同地方内における犯罪認知件数は 5,978 件（前年比-2.6%）で，昨年と比較して，同地方の犯罪認知件数はわずかながら減少した。

（３）この地域における犯罪の半数は財産に対する犯罪（2,984 件）で，その内の 65%が窃盗によるものである。また，モバイル・インターネットを利用した銀行カードからの横領事件の数は 29%増加した。麻薬犯罪は 17%，レイプ犯罪は 25%減少したものの，重大犯罪（人体に被害が及ぶもの）は 11%増加しており，人の多く集まる場所や公共交通機関等を利用する際には，ひったくり，置き引き，スリ等の被害も含め十分に注意する必要がある。

９　日本との関係

（１）歴史

(ア)江戸時代には，伝兵衛(ペテルブルクに送られロシア最初の日本語教師となる)，ゴンザ(ロシアで初の露和辞典を作成)，大黒屋光太夫(ペテルブルク訪問後に帰国を果たし，ロシア事情を日本に紹介)など多くの日本人漂流民がカムチャツカに足跡を残した。また，ゴロウニン事件の解決に尽力した高田屋嘉兵衛も一時この地に滞在している。

(イ)1875 年の樺太千島交換条約では，千島列島北端の占守(シュムシュ)島とカムチャツカ半島南端ロパトカ岬との間が日露両国の国境となった。

(ウ)20 世紀に入ると，サケ・マス・カニなど豊富な水産資源を有するカムチャツカ周辺海域は，日本の北洋漁業の舞台となった。

(エ)日本のポツダム宣言受諾後の 1945 年 8 月 18 日未明，ソ連軍はカムチャツカから占守島に武力侵攻を開始した。既に武装解除の準備を進めていた日本軍守備隊は約 370 人の戦死者を出しながらも果敢に防戦し，攻撃するソ連側がより多くの損害を被った後，23 日に停戦協定が結ばれた。

(オ)第二次世界大戦後，カムチャツカは長らく外国人立入制限地域とされていたが，1991 年に開放され，日本人観光客も増加しつつある。2001 年 8 月，カムチャツカ州は在ウラジオストク日本国総領事館の管轄区域となった。

（２）要人往来(肩書は全て当時)

2003 年 6 月　新藤外務大臣政務官　　カムチャツカ州訪問(マシュコフツェフ知事との意見交換，非核化協力推進等)

2004 年 8 月　田中外務大臣政務官　　カムチャツカ州訪問(マシュコフツェフ知事との意見交換，非核化協力現場視察等)

2006 年 9 月　伊藤外務大臣政務官　　カムチャツカ州訪問(エルモレンコ第一副知事との意見交換，非核化協力現場視察等)

(３)非核化協力(退役原潜解体協力事業)

(ア)1990 年代，ロシア極東には解体を待つ退役潜水艦が多数係留され，放射性廃棄物の海洋廃棄等により重大な環境事故が発生する可能性があった。核物質不拡散の観点からも問題があることから，日本政府は，日露非核化協力委員会(1993 年，二国間協定に基づき設立)を通じてロシアに対する非核化協力を行ってきた。

(イ)2005 年 11 月，プーチン大統領訪日の際，ロシア退役原潜解体協力事業「希望の星」の枠内で，退役原潜 5 隻(4 隻は沿海地方，1 隻はカムチャツカに所在)の解体にかかる実施取決めが署名された。上記 5 隻のうち，カムチャツカ所在の 1 隻(チャーリーⅠ級)については，2008 年 1 月に解体契約が締結されて作業が開始され，2010 年 3 月の完了式典の実施をもって，本事業は完了した。

(４)防衛交流等

(ア)艦艇訪問

2000 年 9 月，海上自衛隊護衛艦 2 隻がペトロパヴロフスク・カムチャツキー市を訪問し，第 3 回日露 SAREX(捜索救難共同訓練)を実施した。また，山崎前海上自衛艦隊司令官(当時)及び勝山護衛艦隊司令官(当時)が同地を訪問し，ザハレンコ太平洋艦隊司令官(当時)と会談した。

(イ)**潜水艇事故救難協力**

2005 年 8 月，カムチャツカ半島沖で発生したロシア太平洋艦隊小型潜水艇事故の際，ロシア政府からの要請を受け，海上自衛隊が艦艇 4 隻からなる救難部隊を同地に派遣した。救難活動は先着した英軍部隊が実施したが，日本の迅速な救難部隊派遣に対し，プーチン大統領から日本部隊指揮官に勲章が授与されたほか，イワノフ国防相(当時)，フョードロフ太平洋艦隊司令官(当時)などロシア側関係者より謝意が表明された。

(５) 日本企業

(ア) 駒井ハルテック，富士電機及び三井物産による，カムチャツカ地方における風力発電実証事業が 2016 年 10 月に終了し，更に，2017 年 9 月の東方経済フォーラムにて３社間でＭＯＵを締結したことを受け，商業ベースでの極東ロシア地域における風力発電の普及・展開に向けて取組を継続中である。

(イ) 2017 年 11 月の日ロ経済合同会議の場で，丸紅，商船三井及びロシア企業「ノヴァテク」の 3 社間で，カムチャツカ半島沖合におけるＬＮＧ積替え基地新設の事業化調査に関するＭＯＵを締結し，2018 年 9 月には，丸紅，商船三井及び極東ＪＰＰＶの 3 社が本件に関する業務協力協定を締結するなど，プロジェクトの具体化に向けて検討を進めている。

（６）文化・教育

(ア)当館主催，カムチャツカ地方行政府の協力による文化行事を毎年のように開催しており，直近では，2015 年から 2018 年の間は日本映画祭を毎年開催した。2011 年～2014 年の間に 3 回の日本文化デイズを開催し，映画上映の他，日本語歌謡大会，着物講習会，茶道教室，華道教室，剣道体験及び折り紙教室等の多種多様な行事を実施し，それぞれに多数の参加者を得ている。

(イ)日本語教育は，カムチャツカ国立総合大学及びロシア協業大学で行われており，毎年，現地で開催されている日本語弁論大会の上位入賞者は極東・東シベリア弁論大会に出場する等意欲的に学習に励んでいる。

（７）自治体交流

現在，カムチャツカ地方と姉妹・友好関係にある日本の地方自治体はないが，1998 年，ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市と北海道の釧路市との間で「港街友好都市提携協定」が署名された。

（８）日本センター

カムチャツカ地方からの要望を受け，2018 年度にウラジオストク日本センターがカムチャツカ地方を対象とした事業を再開。第１弾として，2018 年 4 月に日本人講師による「観光」講座をペトロパヴロフスク・カムチャツキーにて実施した。

（了）

チュコト力
マガダン州
Аянка
Слаутное
カムチャツカ地方
Алука
Ильпырский
パラナ
Палана
オゾラ
Хайрюзово
Ключи
Козыревск
ウシチ・カムチャツク
イチンスキー
Ичинский
Атласово
ミリコヴォ
Соболево
エリゾヴォ
ペトロパブロフスク・カムチャツキー
Октябрьский
ヴィリュチンスク
オクチャーブリスキー